

年頭所感 2013

公益社団法人
北海道臨床工学技士会
会長 室橋 高男

新年明けましておめでとうございます。2013年の新春を迎え、本年が会員皆様と当会にとって良い年になることをお祈り申し上げます。また、日頃より当会の活動に対しまして格別のご指導、ご支援を賜っております関係各位の皆さまに深く感謝申し上げます。

さて、現在の医療には医療機器の存在が不可欠となっており、それらの安全管理が強く求められております。当会は、医療機器の専門家として、学術 技能の研鑽を怠ること無く、生命維持管理装置をはじめとする様々な機器に支えられた医療の安全性と信頼性の向上を目的として活動しております。

昨年は、学術委員会、安全委員会企画の各種セミナーと学術大会を開催し盛況に終えることができました。また、教育委員会では、小人数を対象としたセミナーを継続的に札幌で開催し、一部は旭川で開催するなど新たな試みを実施し、盛況に終了しております。財務委員会、事務局においては各種の受付、事務作業、会計処理など多方面に関わり各事業を成功に導いてくれました。そして、公益事業推進委員会では、公益事業として展開しているAED点検講習会の開催が格段に増える中で委員会メンバーも増員しつつ、道内各地区で活発な活動を実施し、AEDの安全性と信頼性の向上に努め、確実に臨床工学技士の認知度を向上させてきました。この場を借りまして当会活動へご尽力いただいている皆様には、心より感謝を申し上げます。

昨年同様、公益社団法人として公益事業を全道で展開する中で、「個々のスキルアップと技術の研鑽」も忘れることなく、教育システムの構築を充実していきたいと思っております。また、道内に点在する臨床工学技士地方会との結束力を高めるために、継続して各地方会行事へ参加し、交流を深め、北海道の臨床工学技士が一枚岩となり、国や自治体へアピールできるよう組織力を高めるべく努力していく所存であります。

臨床工学技士が抱える様々な問題を克服するためには、当会への入会率を向上させ、組織を拡大することが重要であり、未入会の方々へ入会のはたらき掛けを行うと共に魅力ある組織になるよう、当会の研修会・セミナー等をさらに充実させたいと思っております。

今後、臨床工学技士の職能団体として公に訴えていかなければならない課題が山積みではありますが、今後も皆様の一層のご支援、ご協力をお願いし、本年が会員皆様にとりまして益々のご健勝の年であることをお祈り申し上げます。